

総合歯科医に求められる「医療行動」のコンピテンス

木尾 哲朗

九州歯科大学 総合診療学分野

抄録 新しい時代を担う総合歯科医として身につける医療行動のコンピテンスを、信頼、医学教育、日本総合歯科協議会ワーキンググループによる調査報告、そして日本総合歯科学会学術委員会の医療行動ワーキンググループによる議論という4つの視点から纏めることを試みた。本論文を契機にさらなる議論を招き、新しい時代のニーズに対応した総合歯科医のコンピテンスのコンセンサスを確立できることを期待したい。

キーワード 医療行動、コンピテンス、信頼

緒 言

総合歯科医の目指す全人的医療を実現するには、「医療行動」を理解し身につけることが重要である。しかしながら、この「医療行動」と言う言葉はこれまで明確に定義されていない。そこで本論文では、「医療行動」を患者や歯科医療人の個々の意識（感情や情動など）や行動、さらには患者および患者に関わる重要他者と歯科医療人との間の対人関係における意識や行動であり心理学や行動科学の一領域であると捉えて、そのコンピテンスについて論じたいと思う。

今回、総合歯科医として身につける医療行動のコンピテンスについてのコンセンサスを得る議論のたたき台として、医療行動に関わると考えられる過去の論文を三つの視点から考察し、最後に著者が総合歯科診療技術等検討プロジェクトチームの医療行動チームの座長を行うにあたって頂いた医療行動を考える上での6項目（医療面接、インフォームドコンセント、臨床推論、診断、指導、管理、ケアリング、プロフェッショナルリズム）について本チームで議論した結果について報告する。これらが、今後の総合歯科医の医療行動コンピテンスを議論する緒になれば幸いである。

1. 信頼という視点からの考察

米国の医学研究者である Thom ら¹⁾ はフォーカスグループ調査を行い、その患者インタビュー記録をコード化することにより、患者の信頼を図1に示すように7つのカテゴリーに分類した。この7つのカテゴリーのうち最初の2項目は「診断」と「治療」という従来から重視されてきた医療者

の技能コンピテンスであり、残る5つのカテゴリーは、対人関係におけるコンピテンスであり、これは医療行動のコンピテンスと関連があると考えられる。Thom らは信頼の形成には、医療者の臨床能力のみならず、対人的特性や対人技能が重要であると結論づけており、その後、方法論は異なるが彼の研究結果と同様な研究結果が導かれている。本邦においては、西垣ら²⁾ が日本人の医師患者関係の信頼に関する半構造化面接を行い、その結果信頼に関して3カテゴリーと10のサブカテゴリーを提示している（図3）。ここで西垣らはThom ら以上に具体的に信頼に影響を与える医療行動を示している。これらふたつの研究から、信頼自体に時代や文化を越えて変化するニーズと変化しないニーズの存在をうかがい知ることができ、それを得るための医療行動のコンピテンスも時代や文化に依存する可能性が考えられる。

1. 適切な診査と診断の徹底
2. 適切で効果的な治療
3. 患者の経験の理解
4. 患者への気遣いを示す
5. 明確で正確なコミュニケーション
6. パートナーとしての関係の構築
7. 患者に誠実で、敬意を示す

図1 信頼に影響を与える因子 (Thom¹⁾ 著者意識)

2. 医学教育の視点からの考察

英国の医学教育者である Harden^{3), 4)} はプロフェッショナルを「reflective practitioner 省察する実践家」とし、社会が求める医療者のコンピテンスについて Three-Circle Model で説明した（図2）。Three-Circle Model は3つの同心円から構成され、